

未来創造人

今号の特集にも登場した二人は2024年度入社同期。落ち着いた雰囲気のある西さんと、元気はつらつな岡田さん。正反対のキャラクターだからこそ、現場ではバランスのいいコンビとなった。

岡田さんは初めての現場で知識不足を痛感したという。「先輩や職人さんの言う専門用語が分からなくて、その都度、調べながらやるという感じでした。先輩方をよく見て早く立ち立ちたいです」(岡田さん)

西さんは、現場で厳しい言葉をかけられ、落ち込むこともあった。西さんを救っ

横浜支店
工事部 建築課
おかだ しんや
岡田 慎也



僕らの世代で

道路だけじゃない鹿島道路へ

たのがメンター・メンティー制度。メンターの先輩から、「現場での指摘が正しいかどうかは経験不足でまだ分からないのだから、今は考え過ぎなくていい。でも、必ず頭に入れておくと将来につながるよ」とアドバイスを受け、気持ちが楽になったとのこと。

若き二人に共通するのが建築への思いだ。「社名に道路が付いているので、どうしても道路しかつくっていかないと思われてしまいますが、鹿島道路は建築もすごいと思ってもらえるよう頑張ります」と言う西さんに岡田さんも大きくうなずいた。

東京支店
工事部 建築課
にしりゅうせい
西 竜聖

きっと、未来に続く道



特集

笑顔で創る地域の未来



発行日：2025年2月25日

発行：鹿島道路株式会社 経営企画部

KIT PLUS に関するご意見・ご感想・ご要望をお寄せください。

✉ 経営企画部 松本 (runa@kajimaro.co.jp)



THE PROJECT

特集

笑顔で創る地域の未来

住民のライフラインとなっている地元密着型スーパーマーケットの解体新築工事。この大規模工事に鹿島道路 横浜支店の工事部建築課が挑みました。首都圏連携^{※1}をはじめとする働き方改革を推し進め、過剰な残業や休日出勤の負荷をかけずに「時代に即した工事」で2024年問題^{※2}などの課題を乗り越え、社員と住民双方に笑顔が広がる施工を実現しました。

Build the Future with Smiles



About the Facility

FUJI伊勢町店新築工事

発注者：株式会社荏原屋
工期：2024年1月15日～
2024年11月15日
工事場所：横浜市西区伊勢町
工事内容：既存店舗解体撤去、新築工事



※1 首都圏連携

鹿島道路では、近隣支店が連携してプロジェクトを進める取り組みを加速させています。大規模な工事の受注が可能になるのはもちろん、各支店の力を結集することで、働き方の改善にもつながるさまざまなメリットが生まれています。限られた工期で、作業の質を維持しながら確実に施工を進めるために、本プロジェクトでも3つの支店が連携しました。

※2 2024年問題

建設業の2024年問題とは、時間外労働の上限規制の適用により、労働環境の変革が求められている状況のことで、時間外労働の上限は「月45時間・年360時間」が原則です。

Phase 1 Nov. 2023 - Mar. 2024

▶ 着工準備/既存店舗解体

半世紀以上、地域を支えた建築物を解体・撤去

Introduction

横浜みなとみらいや中華街など、有名な観光地にも程近い伊勢町の閑静な住宅地に、今回の現場となるスーパー「FUJI伊勢町店」はありました。築50年以上の既存店舗の解体撤去、ならびに新築工事を手がけた工事部建築課の5人のメンバーは、施工に際して克服すべき4つの課題と対峙しました。



3つの立地的課題

最初の課題は近隣住民への配慮。住宅やバス停のある大通りに面しているため、騒音や安全対策は必須でした。メンバーは小まめにあいさつ回りを行い、工事内容を周知するとともに、毎日見回りを欠かさず、養生シートがはみ出していないかなど、細かい点までチェック。そのおかげで工事終了時には、完了を惜しむ住民もいたほど、愛される存在になっていました。2つ目は搬入の課題。搬入路は細い一方通行道路で大型トラックの進入は困難。そこで、管轄の警察と

折衝し、一通道

路をバックで進入する許可を得ることで効率化を図りました。最後の課題は、敷地のほとんどが建物のため、資材や重機の置き場がないこと。全業者が顔を合わせる週1回のミーティングの他、各所で分科会を頻繁に開催し、効率的な移動・搬入・施工の工程を何度も練り直すことで、竣工につなげることができました。



許可申請した市道

時の設計図や仕様書が一部ない中で苦労したのが、電線の引き込み。配線のつながりを一つ一つ検証する地道な作業の連続でした。中には今では使われていない古い規格のものもあり、仕様を調べるのに多大な労力を要しました。

近隣から
ノークレーム
での完成は
うれしかった!



横浜支店
工事部 建築課
こんどう ゆきや
近藤 敬也

古い建築物特有の課題

既存建物は築50年と古く、当

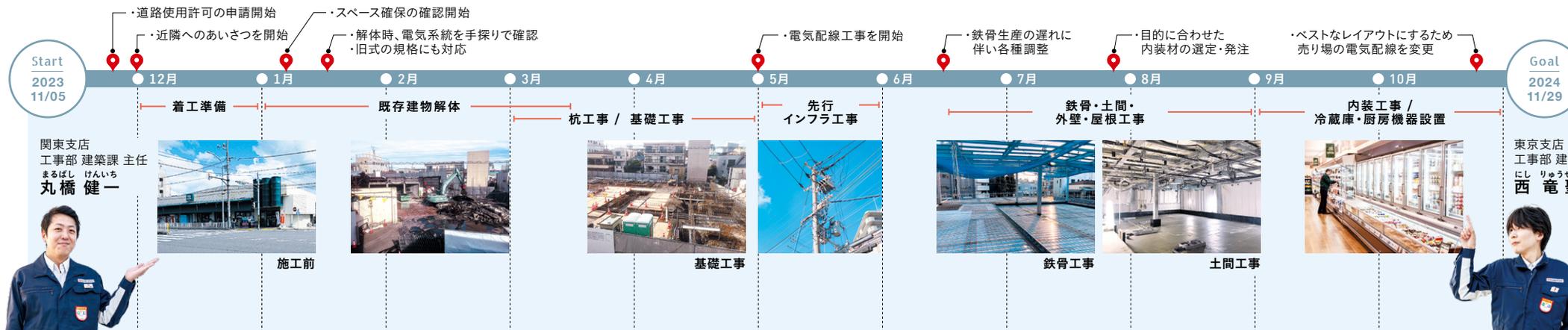
▶ 4つの課題

課題1
立地条件

課題2
築年数

課題3
進行管理

課題4
業種



Phase 2 Mar. 2024 - Nov. 2024

▶基礎工事/先行インフラ工事/内装工事/冷蔵庫・厨房機器設置 ほか

お客様に喜ばれる、妥協のない店舗を 新築

進行管理の課題

鉄骨の製造が予定より遅れ、後工程の内装を圧迫。業者と打ち合わせを重ね臨機応変に工程を調整しました。タイトな工程にさまざまな声が上がると、職人との交渉に若手も参加し奮闘。普段の態度やコミュニケーションが人を動かすことを知るなど、気づきと成長の場になりました。

小売業ならではの課題

業種の特性上、スーパー側は店内の装飾や機能性をギリギリまで追求。途中で設計が変わることも頻出し、特に冷蔵庫周りのレイアウト変更に伴う設計の対応には苦労したそうです。床材のチョイスや、内装業者を入れる段取りの調整など、これまで培ってきた経験をフル活用して対処しました。

Our Leader

横浜支店
工事部 建築課 課長代理

さとう こういち
佐藤 浩一

われわれの知識や経験、技術を総動員して、臨機応変に取り組み、工事部建築課の力を結集して成し遂げたプロジェクトとなりました。



Another Story

→ 信頼が生み出したプロジェクト

今回の落札は、信頼の積み重ねの結果でした。FUJIスーパー様とは、過去にも接点がありましたが、長く関係が途切れた状態でした。そこに営業をかけたのが、横浜支店営業部の東野 光伸さん。全店舗約50店を回り、舗装や改装が必要と思われる箇所をすべて把握。先方が電話で「A店で穴があいて」と言おうものなら、間髪を入れず「入り口の右側ですね」と具体的な場所を返せるほどに。今回の工事までに小規模な補修などの実績を10件以上積み上げました。その間にも、別工事のお弁当をFUJIスーパー様にお願いしたりと信頼関係を深め、見事、今回の大型プロジェクト受注へとつなげました。



横浜支店 営業部
担当課長
ひがしの みつのぶ
東野 光伸

写真左から
横浜支店 工事部建築課
課長代理
さとう こういち
佐藤 浩一
横浜支店 工事部建築課
おかだ しんや
岡田 慎也

1F
バック
ヤード



2F
調理
スペース



PROJECT REVIEW

▶ 竣工までのプロセスと新たな目標

プロジェクトの振り返り

さまざまな困難を乗り越え竣工を迎えた5人のメンバー。当時の思いや、今後の意気込みを伺いました。



力を結集して、限界を突破



佐藤 今回は首都圏連携ということで3つの支店からメンバーが集結。私と近藤さんは解体からずっと常駐していたね。

近藤 はい。住宅地の真ん中ということで、近隣の方にはいつも以上に気を使いました。この日の何時ぐらいに揺れますと小まめにお伝えするようにしていましたね。

佐藤 近藤さんは笑顔がいいので、近隣の皆さんからも人気があった。最初は私も同行したけど、途中から任せられるぐらい成長！私は現場代理人として全体を見ていたけど、丸橋さんが現場をしっかりと仕切ってくれた。

丸橋 初めて図面を見たときから、物を置くスペースが少ないので、後半は大変になると思いましたね。今回は多くの業者が関わ

るので、常に先読みしてロスなく効率的な工程を考えることを意識していました。

岡田 僕と西さんが現場に配属されたときは、内装工事が始まっていました。資格試験で勉強していたので、知識としてはあったのですが、実際の現場は全然違いました。

西 初めての現場で学びが多かったですし、自分が分からないことを代わりにさっとやってくれた先輩方がカッコよかった！自分も早くこうなりたと思いました。

佐藤 私はこれまで1人の現場がほとんどで、新人がついたのは初めて。だから、何をどこまで伝えたらいいのかは悩んだな。

丸橋 私が新人2人を教えるときに意識したのは、教えた内容をいったんアウトプットさせること。そこで、きちんと説明できて初めて理解しているなど判断していました。



横浜支店
工事部 建築課 課長代理
さとう こういち
佐藤 浩一

私がこれまで担当した案件でもっとも大規模な工事。無事のオープンに安心しました。今回の現場で確実に次世代が育っていることが分かったのも良かったですね。



関東支店
工事部 建築課 主任
まるばし けんいち
丸橋 健一

この案件は、厳しい立地条件や、関連業者の取まりなど本当に勉強になりました。この経験があればどんな案件も怖くありません。今は、何でも来い！という気持ちです。



横浜支店
工事部 建築課
こんどう けいや
近藤 敬也

最初から最後まで常駐し、一から学べたことが財産になりました。特に近隣の方とは温かい交流をはかり、皆さんが喜んでくれる物をつくれた充実感でいっぱいです。



東京支店
工事部 建築課
にし りゅうせい
西 竜聖

分からないことばかりでしたが、先輩から多くを学び、成長できたので、自分としては楽しい現場でした。先輩方のように早く一人前になれるよう頑張ります！



横浜支店
工事部 建築課
おかだ しんや
岡田 慎也

知識と現場の違いに最初は戸惑いましたし、職人さんに接するのも初めてで、どうすればうまくいくのか絶えず考えながら過ぎしました。貴重な経験だったと思います！

現場からの学びで、全員が成長



近藤 僕はまだまだ経験のない4年目で、新人2人を教育する一方で、上司2人からは絵工程など全体を見る仕事も一部任せてもらって、板挟みでしたけど(笑)、その分、大きく成長できました。

西 ここで先輩から学んだことは、今後の糧になると思います。

岡田 はい、最初の現場が、本当に学びが多いこの現場で良かったと思います。

佐藤 私自身も工程管理から、人材の活用まで、大きな学びがありました。5人全員が大きく成長できた現場だったよね！

一同 うんうん。首都圏連携のメンバーが1チームとなって協働したから、スキルの継承や、負荷の少ないスケジュールによる施工ができたと思う。この貴重な経験を、今後も活かしていきます！

首都圏連携で築く次世代の施工体制

横浜支店 工事部次長/建築課長 **佐藤 実**

今回のプロジェクトでは、工期内の竣工と予算を心配する声もありましたが、無事故無災害で完遂できたことは大きな成果です。支店内のチームワークと首都圏連携の強化により、効率的な施工体制を築けたことは今後のプロジェクトにもつながる成功例です。

また、若手社員の成長や顧客との信頼関係の構築も進展し、さらなる可能性が広がりました。特に横浜支店では、他支店との情報共有や連携が不可欠であり、効率的な施工体制を築くための鍵となります。この経験を基に、顧客満足度の向上と持続的な品質向上に取り組みます。



 **ICPIC 日本支部 座学・見学会と
技術交流を開催**

2024年11月15日、技術開発総合センターにて、国際コンクリート・ポリマー複合体会議 (ICPIC) 日本支部 Polymers-in-Concrete 委員会の座学・見学会を実施しました。

ICPICは、米国デンバーに本部を置き、コンクリート・ポリマー複合体の世界的普及を目的として、3年ごとに各国で国際会議を開催する他、材料に関するセミナーを行うため専門技術者の派遣を行うなど、さまざまな普及活動を行っています。本委員会もその発足以来、定例会や共同研究を通じて、国内外への情報発信および普及活動を続けており、当社も法人会員として参加しています。

当日は、技術開発総合センターにおいて、技術研究所および機械部での最近の舗装技術に関する座学、各種試験機やロードシミュレーター、指向性スピーカーのデモンストラーションを行いました。さらに栗橋合材製造所におけるアスファルト合材の製造状況も見学しました。質疑の際には、多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

その後、一行は鹿島建設が施工した埼玉県春日部市の首都圏外郭放水路 (国土交通省関東地方整備局 江戸川河川事務所管理) を見学し、当社職員も数名同行して実りある時間を共有しました。

① 参考 「現場から：市街地を浸水被害から守るために - 首都圏外郭放水路建設工事」
https://www.kajima.co.jp/news/digest/july_1998/genba/genba.htm

01



(上) 当社技術開発総合センターにおける座学
(下) 自社開発の自走式路面乾燥機の実演



首都圏外郭放水路の調圧水槽の見学

 **ダウンタイム[※]の悩みを解決する
人工芝改修工事の「オーバーレイ工法」とは**

人工芝改修工事によるグラウンドのダウンタイムは大きな課題です。今回の案件は、私立高校の体育授業にも使用される多目的グラウンドの改修工事で、長期の使用中止が許されない中、「オーバーレイ工法」が唯一の解決策として採用されました。

オーバーレイ工法とは、既存の芝を撤去せずに新しい人工芝を重ねて敷設する工法。これにより、短期間での施工が可能となり、既設芝がクッション性能を向上させる役割も果たします。さらに、メーカー協力の下、施工後のクッション性能が経年劣化しない実証データも得られています。施工は、既設芝の周囲をカット・撤去し、充填材の喪失箇所には珪砂を散布して不陸を調整。続いて、「ノンスリップ工法」で特殊ノンスリップシートを敷設しました。これは株式会社住ゴム産業の独自工法で、既設芝と新設芝のズレ防止効果があります。

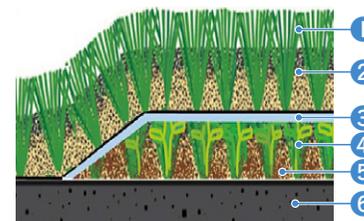
オーバーレイ工法では、次回以降の改修工事で撤去新設が必要になる可能性が高く、その際、既設芝の撤去費用が発生し、ランニングコストに影響を与える点についても事前に説明しました。

片山さん (営業部営業課 課長代理) は次のように述べます。「お客様が直面する『悩み』は業種によりさまざま。その課題に寄り添うことが重要です。小規模工事でも関係性を深め、最良の提案を行う姿勢が信頼構築につながると考えています」。

02



木更津総合高校第1グラウンド



既設人工芝の上に再敷設する独自工法

- ① ハイブリッドターフ人工芝新規敷設
- ② ゴムチップ・目砂充填層新規充填
- ③ 特殊ノンスリップシート新規敷設
- ④ 既設ロングパイル人工芝
- ⑤ 既設充填層
- ⑥ 既設アスファルト基層

※ **ダウンタイム**
工事によるダウンタイムとは、改修や補修作業に伴い施設や設備の通常利用が一定期間停止し、その間利用者が使用できないなどの制約を受ける状況を指す。